

北海道算数数学教育会小学校部会会報

第 96 号

さんすう

H22・7・21

北海道算数数学教育会
小学校部会発行

今こそ、主張ある授業・提言を通して学び合う研究を

北海道算数数学教育会

小学校部会会長

札幌市立屯田小学校長

佐々木 雅 史

■「台形の面積」の変遷から見てくると

いよいよ来春、子どもたちは厚い教科書で学習することとなります。「ゆとり」からの脱却を象徴する代表的教材の一つが、「台形の面積(5年生)」です。見本教科書では、図解によって(上底+下底)×高さ÷2という公式まで導きだすようになっています。

まずは「台形の面積」について、算数教育の中での変遷を概観してみたいと思います。

【戦前(昭和12年)】

6年生の教科書に、台形(梯形:テイケイ)の面積の求め方(立式)、2つの台形の面積の差、台形の高さを求める問題などがあつた。いずれも手強い問題。

【昭和43年~】

昭和32年のソ連の Sputnik 衛星打上げ成功による教育の現代化の動きによって、「集合、関数、確率、位相、回転体」などが登場することとなった。「台形の面積」についても、5年生の量と測定領域で、「三角形、平行四辺形、台形などの面積のしかたを知ること」と目標に記されている。

【昭和52年~】

昭和40年代後半からの「算数嫌い」「落ちこぼれ」増によって、「現代化」の崩壊が始まった。数学の権威者は「現代化の呪縛からの解放」を唱え、マスコミは「落ちこぼれの元凶は「集合」と批判した。「台形の面積」は、前学習指導要領とほぼ同じ扱いである。

【平成元年~】

第2、4土曜日の休業日化に伴い、時数の削減が始まった。「台形の面積」は、前回改訂と変わらず、昭和43年以降約30年間、ほぼ同様の扱いが続いている。

【平成10年~】

完全学校週五日制となり、「総合的な学習の時間」が新設されたため、算数科の指導内容が厳選された。「円周率が「3」ということが世論を騒がせた。

5年生の量と測定の目標は「三角形及び平行四辺形の面積の求め方を考え、それらを用いること。」となり「台形の面積」は削除されることとなった。

【平成20年~】

そして今回の学習指導要領では、台形の面積の求め方が復活。5年生の量と測定領域で、「三角形、平行四辺形、ひし形及び台形の面積の求め方を考えること。」と表記された。

このように、扱いが変わってきた教材は、他にも多数存在します。時代背景や教育施策によって変わるのはい

解できるとしても、その都度、教師や子どもたちがうろたえ、自信を失うのでは困りものです。

事実、昭和43年の学習指導要領では、「現場教師が現代化教材の意義と役割を十分に飲み込めないまま、見切り発車したため、集合、関数、確率などの新教材の指導が徹底せず、落ちこぼれを作る要因になった」という歴史が残っています。二の舞は避けたいです。

■このことを北数教メンバーはどう捉えるべきか

「教科書に載っている通りに指導する」という受け身的な発想の北数教メンバーは少ないでしょう。教材の本質を探り、教材の系統や関連について調べ、算数的な活動をどう組み込んで指導するかなどについて、主体的に考察・検討するに違いありません。

例えば、「台形の面積」の場合では、対角で一本線を引き、二つの三角形を作る、台形を二つ組み合わせて既習の平行四辺形に変形するといった、質の高い算数的な活動を通して、「感情が納得」するまで、じっくり取り組ませることが大切です。こうして導き出された公式は、暗記で得た公式とは違い、一般化につながる強固な理解を伴ってくるからです。

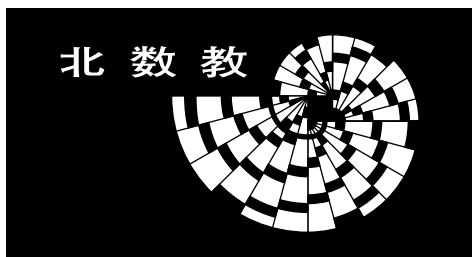
北数教では、自分の持っている限られた知識を、多くの問題に適用する子を育てようとしています。算数的活動を今一度見直し、思考力・表現力を育む問題解決学習の望ましい姿をめざしています。大切なことは、各会員が確かな教材観をもつことだと思うのです。

■北数教大会の授業・提言で

第65回北海道算数数学教育研究大会は、10月14日(木)、15日(金)の両日、札幌サンプラザと札幌市立山鼻小学校を会場に開催されます。

授業では、算数的活動と子どもの活動の姿が見どころとなるでしょう。領域・課題分科会では、領域内容(教材観)に重点を置いた研究提言を期待しています。江森英世氏(群馬教育大学)による「算数的活動を活かすために、教師の数学的センスを鍛えよう」の講演は、今から楽しみでわくわくしています。

学習指導要領の本格実施を前にした今こそ、主張ある授業・提言を通して、ベテランも若手も、共に学び合う研究大会にしたいと思います。爽り多い大会となるよう、多数のご参会をお待ちしています。



小学校部会 研究部

【研究主題】

豊かな心を育てる算数教育

【研究副主題】

思考力・表現力を育む問題解決学習
～算数的活動を今一度見直して～

I. 研究主題に込めたもの

新学習指導要領への移行措置期間である平成21・22年度の2年次研究に取り組んでいます。主題「豊かな心を育てる算数教育」は根源的な課題として継続し、数理を追究する活動を通して、次の様な「豊かな心」を培います。

- ① 活動の楽しさや数理や図形のしくみの規則性や論理性、明確さなどを美しいと素直に感じる心
- ② 見通しをもち、筋道立てて考え、処理していく過程で、「簡潔、明瞭」、「統合、発展」を求め続ける心
- ③ 子ども自身が自らの力で学んだことを生かし、仲間と積極的に交流しながら、認め合ったり、高め合ったりする心

そして、算数教育を通して、どんな豊かさ（生きる力）を培うのかをさらに大きな視野で見つめ、次のようにおさえました。

- 算数を学ぶ楽しさやよさを感じる
⇒考える習慣を身につけること
- 新しいことを発見したり創ったりする
⇒未知な対象への追究の仕方を身につけること
- 自ら考え、仲間と共に解決していく
⇒明確な根拠をもちながら、情報を伝達し合うこと

II. 副主題設定の理由

1. 研究副主題設定にあたって

前年度までの研究の成果と問題解決の現状や問題点を整理し、今後の研究に以下のことを大切にしていこうと考えました。

- ・新学習指導要領の内容を北数教の研究に確実に取り入れること。
- ・「問題解決学習」についてのとらえをしっかりとすること。
- ・算数的活動と問題解決学習の関連を明確にすること。

今回の学習指導要領の改訂では、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることと、数学的な思考力・表現力を育てることに重点がおかれしました。研究部では、これまでも大切にしてきた「基礎・基本の習得」と合わせて「思考力・表現力の育成」に焦点を当てて研究を進めていきます。また、思考力・表現力を育むための「算数的活動」を今一度見直していきたいと考えます。子どもが思考し、表現していく算数的活動を問題解決学習に確実に位置づけることで、基礎・基本の定着が図られ、算数を学ぶ意欲が高まるとおさえて、研究副主題を設定しました。

2. 研究副主題に込めたもの

- ① 思考力・表現力
 - ・数学的な思考力を「筋道を立てて考える力」ととらえ、考えることと表現することの両面から子どもの数学的な思考力を高めていく。
- ② 算数的活動
 - ・授業改善の視点として、現在行われている活動の在り方を今一度見直すとともに、子どもが目的意識をもって主体的に取り組む活動について考える。
- ③ 問題解決学習
 - ・子どもの意欲を生み出す算数的活動を通して、子どもが自ら考え、表現することによって学習の目標に迫っていく学習と考える。

3. 思考力・表現力

今回の学習指導要領の改訂では、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることと、数学的な思考力・表現力を育てることに重点がおかれしました。数学的な思考力・判断力は、子どもが合理的・論理的に考えを進め、お互いの知的なコミュニケーションを図るために欠くことのできない力であると述べています。

数学的な思考力とは、問題を解決するため、これまで経験してきたことや学習してきた何が使えるのか、どのように活かせばよいかを判断したり、どんな見方をするかと解決できそうかを試したりして、筋道立てて考えていく力です。

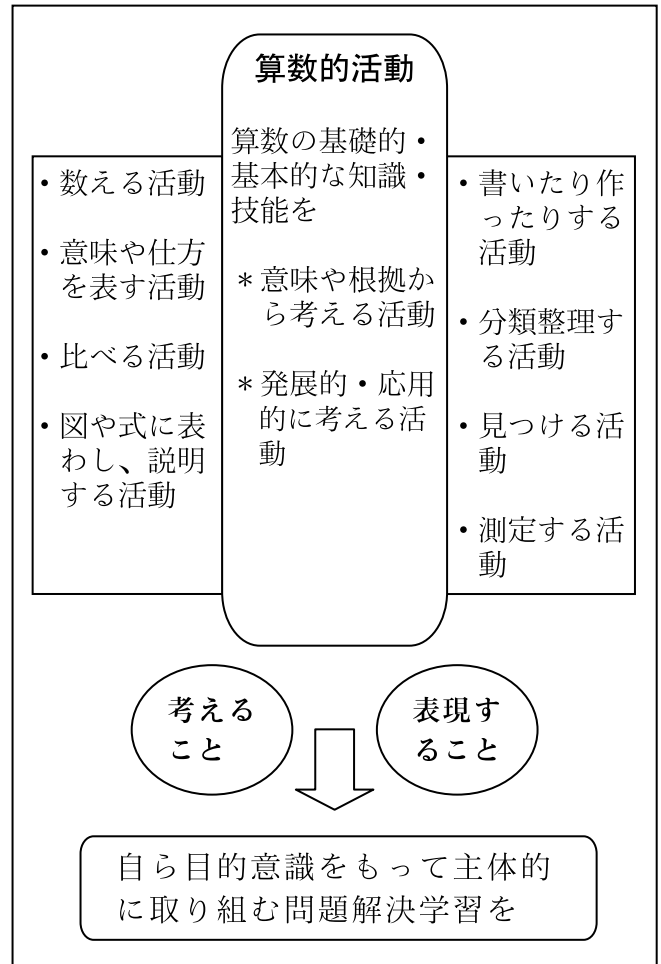
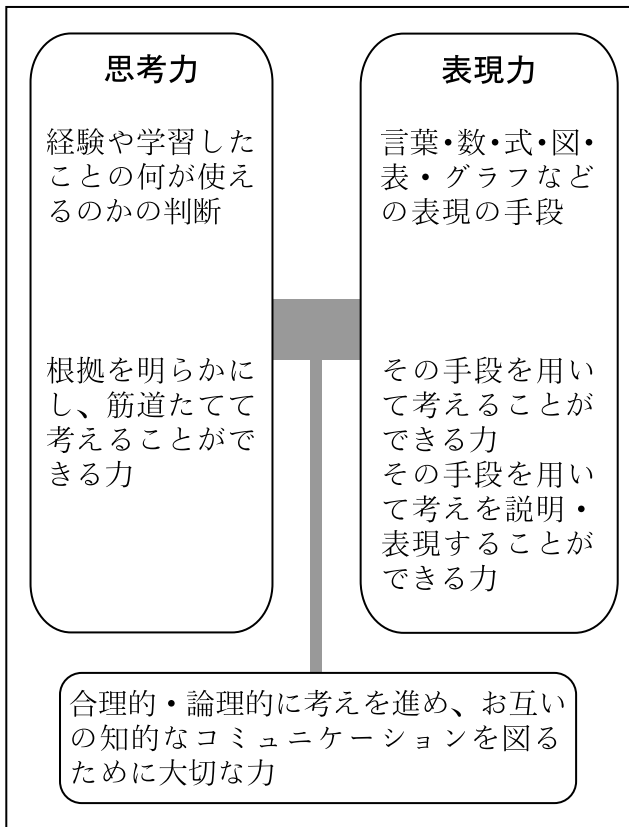
数学的な表現力とは、問題を解決するために「言葉・数・式・図・表・グラフ」などを手段として用い、表現しながら自分の考えを組み立てていく力と、他者と共に問題を考える時に、相手に考えを伝えるために上記の手段を活用して、根拠を明確にしなが筋道立てて説明する力です。

「考えるために表現し、表現することを通してより考えが深まる」という、考えることと、表現することの相乗効果によって、子どもの筋道立てて考える力がよりいっそう育つと考えます。

したがって、研究部では、「考えること」と「表現すること」が関連した活動を通して、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けていく授業を目指します。

でなく、基礎的・基本的な知識・技能を、その意味や根拠から考えたり、それを発展的・応用的に考えたりする活動を指しています。このことは、北数教で考えている「考えること」と「表現すること」が関連した活動であることといえます。機械的に計算の手順をあてはめて答えを出す活動などは算数的活動とは言えません。学年・領域・単元・毎時間の学習の中で、どのような算数的活動を位置付けることができるのかを今一度見直していきたいと考えます。

また、子どもが目的意識をもって主体的に取り組むことを大切に、自ら考え、表現することによって、学習の目標に迫っていく学習こそが目指す問題解決の学習なのです。



4. 算数的活動

今回の学習指導要領の改訂では、算数科の目標のはじめに「算数的活動を通して」という文言が位置付けられています。算数的活動はこれまでも目標に位置付けられていましたが、より具体的に示されています。各学年で示されている算数的活動は「数える活動・意味や仕方を表す活動・比べる活動・図や式に表わし、説明する活動・見つける活動・測定する活動・書いたり作ったりする活動・分類整理する活動」という内容が挙げられています。

上記の算数的活動は、具体物などを操作する活動だけ

Ⅲ. 研究を深めるにあたって

今年度は次ページのような年間計画で研究を進めていきます。この研究主題・副主題を受けて各地区・支部が研究を進め、各地区・支部の実践・検証を集約し、北海道の算数教育の実状と成果・課題を明確にしていきたいと考えています。

平成22年度 研究推進計画

全道常任幹事会・代議委員会 小学校部会総会

研究内容・推進計画を提案

各ブロック・支部との研究内容の交流

各ブロック・支部において
「思考力・表現力を育む問題解決学習」を目標とし、
算数的活動に焦点をあてた授業実践を進める

第65回札幌大会

学年を柱にした授業研究

- 1 学年部会
- 2 学年部会
- 3 学年部会
- 4 学年部会
- 5 学年部会
- 6 学年部会

指導案検討
特設公開授業
授業分科会
を通して研究を推進する。

領域から見た実践研究

- ①数と計算Ⅰ部会
- ②数と計算Ⅱ部会
- ③量と測定部会
- ④図形部会
- ⑤数量関係部会
- ⑥学び方部会

全道から募集する。
基調発表を作成する。
6つの領域・課題分科会における研究発表を通して研究を推進する。

講習会による研修

今日の算数教育に関する課題
学習指導要領・教育課程に関する課題
授業実践に関する課題

各ブロック・支部との研究交流
研修会・講習会の共催

平成22年度北数教小学校部会の
研究成果及び課題

HP・会報等を通じて

■HPを活用した
研究内容の広報
大会案内

■大会1次案内
■会報96号による広報
(7月)

■大会2次案内

■会報97号による広報
(9月)

■第65回大会要項
■第65回研究紀要
・指導案
・研究発表

■HPを活用した
研究内容の広報
大会報告

■会報98号による広報
(12月)

■大会記録集

IV. 具体的取り組み

1. 基調発表

研究部では、これまでの研究実践をふまえ、新しい学習指導要領の基本方針を確実に学ぶ研究とするために、基調発表の内容を検討しました。

6月初旬に会員の皆様へお届けした各領域の基調発表は、現状の分析として、日数教大会の分析とこれまでの北数教大会の傾向を示すとともに、副主題にある思考力と表現力と算数的活動についての内容を付加しました。10月の札幌大会では、全道各地からの研究発表をもとに、分科会の研究課題として追究していきたいと考えております。

2. 大会授業検討会

今年度は10月14・15日両日にわたり、北数教第65回札幌大会が行われます。小学校部会は札幌市立山鼻小学校の子どもたちと先生が公開授業を行います。

先月、山鼻小学校において、第1回の公開授業と授業検討会を行いました。以下に各学年の様子をお知らせいたします。

今後は夏季休業中にも授業検討会を行い、内容を深めていきます。授業概略として指導略案を次号でお知らせする予定です。

1学年 授業者 村崎 舞 先生

公開授業「かずのなまえ」

「赤い魚と青い魚、どっちが多いかな」という場面を通して、1対1対応の数の見方を生かしながら様々な比べ方を交流しました。1年生らしく黒板の具体物を操作しながら楽しそうに学ぶ子どもたちでした。検討会では、そんな子どもたちの姿をさらに生かすためにも大会に向けて1年生らしい学びのあり方を話し合いました。
(本部研究部 加瀬)

2学年 授業者 土田 邦敬 先生

公開授業「たし算のしかたを考えよう」

授業は子どもとの対話の中から問題をつくることから始まりました。既習と比較し、半具体物を操作しながら、繰り上がりの意味をとらえる姿が見られました。検討会では、学力差のある個々を生かし、学び合いを組織する授業のあり方について交流しました。
(本部研究部 高田)

3学年 授業者 阿部 美幸 先生

公開授業「たし算とひき算の筆算」

授業では、感じた疑問を素直に表現したり、受容的な雰囲気や友達の考えに反応したりする子どもの姿があり、随所に子どもを育てるための先生の営みが見られました。検討会では、子どもの考えの比較の仕方や交流のあり方等について話し合いました。
(本部研究部 村上)

4学年 授業者 庄司 直美 先生

公開授業「わり算の筆算(1)」

本時は、 $52 \div 4$ の場面の学習でした。子どもたちは、54を分解することで九九が使えるようにしたり、図を使って解決しようとしていたりしていました。検討会では、この一年間で育てたい子どもの姿とそのためになんか取り組みを重ねていくかについて交流しました。
(本部研究部 島貫)

5学年 授業者 酒巻 智 先生

公開授業「体積」

授業は、複合図形の体積を既習の公式を活用して求める場面でした。体積を出すには、どの辺が必要かと考えさせながら見通しをもたせました。「面積のときね…」という表現を大切に話した話し合いでした。大会に向けて、子どもの考えを「どう表現させていくか」について議論しました。特にノートへの表現のしかたは大事にしていこうと話し合いました。
(本部研究部 高橋)

6学年 授業者 瀧野 隆太 先生

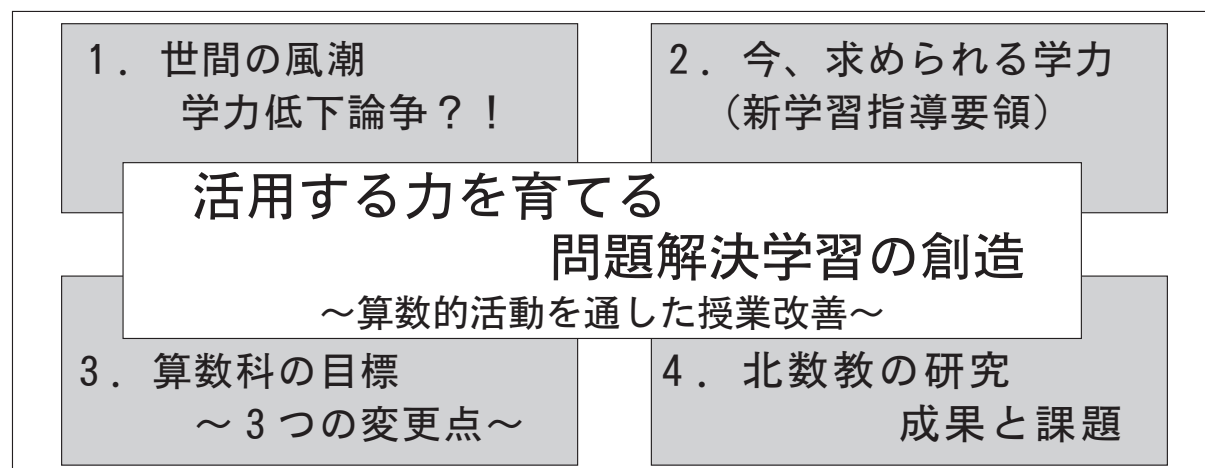
公開授業「分数のたし算ひき算」

授業は最高学年らしく、子どもが意欲的に課題に取り組む姿勢がみられ、授業にそったつぶやきや発言が多くありました。検討会では子どもの反応を活かす板書や教師のかかわりについて学び合うことができ、有意義な会となりました。
(本部研究部 黒澤)

北海道算数数学教育会

札幌支部の研究構想

I 算数教育を取り巻く状況



1. 世間の風潮 学力低下論争？！

算数教育を取り巻く状況は非常に厳しい。

- 内容減、時数減によるゆとり教育への批判
- 実生活に活用する力に課題（全国学力・学習状況調査の結果から）
- 国際的に見て日本は上位にあるが、読解力の低下など、最上位（世界トップレベル）とは言えない状況 国際学力調査（PISA, TIMSS）の結果から

2. 今、求められる学力

新学習指導要領の総則には、学力の重要な3つの要素が明記されている。

- 基礎的・基本的な知識及び技能
- 思考力、判断力、表現力等の活用する力
- 主体的に学習に取り組む態度（新学習指導要領 総則より）

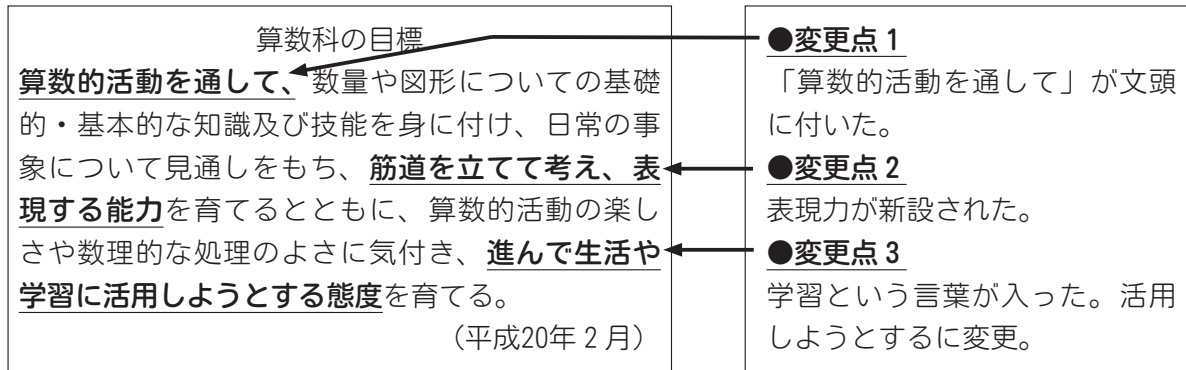
「実生活に活用する力」の向上と「知識・理解」の習得との相関が高いことは全国学力学習状況調査で明らかになっている。つまり、「確かな学力」でなければ「実生活に活用する力」はより質の高いものにならない。

3. 算数科の目標 ～3つの変更点～

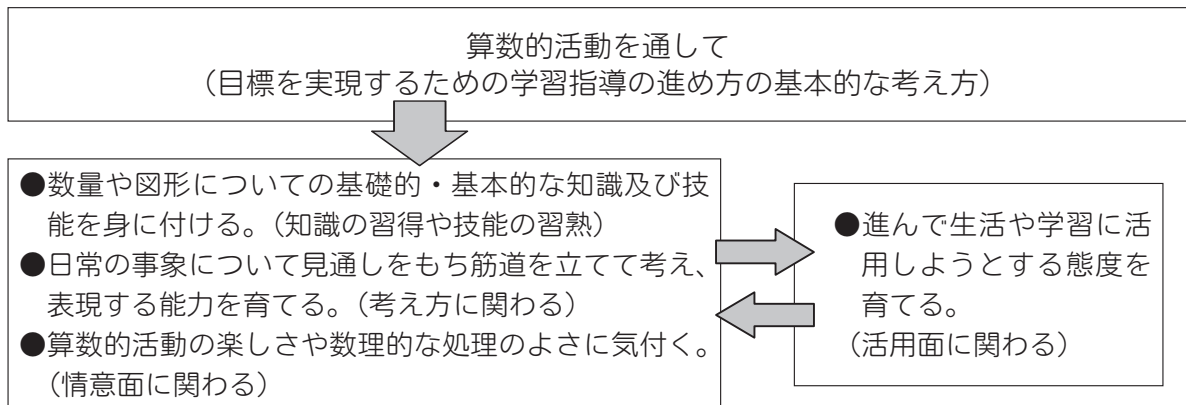
平成20年度1月の中央教育審議会答申に、算数科の改訂の基本方針が示された。

小・中・高等学校を通じて、発達段階に応じ、算数的活動・数学的活動を一層充実させ、基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、数学的な思考力・表現力を育て、学ぶ意欲を高めるようにする。

(1) 算数科の目標 3つの変更点



(2) 目標から見える算数の授業像



4. 北数教の研究 成果と課題

(1) 研究主題の移り変わり

- ◆H12～14年度 算数科の問題解決力を高める授業の創造
- ◆H15～17年度 数学的な考え方・学び方を自分たちで創り出す授業
- ◆H18～20年度 子どもが問い続ける創造的な授業の創造

研究主題を見ると、「子どもが算数の学習を創っていく」ことをねらいとしている。

(2) 成果と課題

○問題解決学習を大切にしてきた

- ・既習事項を活用することが常に求められる。
- ・自力解決は、思考力を鍛錬するのに最適な場である。
- ・全体交流は、一人一人の解決について、みんなで話し伝え合う場であり、言語活動を鍛えるのによい場である。
- ・良質な「問い」を生むことで、子どもが課題を解決したいという思いを強くもつ。

○実践を通して明らかになったこと

- ・子どもは「知りたい」「わかりたい」「やってみたい」と思っている。
- ・「なぜ?」「どうして?」といった問いをもつと、追求したくなる。
- ・一緒に知恵を出し合って考えていく過程が大切。
- ・物を使って具体的に活動すると、意味を伴った理解ができる。
- ・学びを見つめ直す場を設定することで、次時への意欲が増す。

◆「問い」とは・・・

- (1) 学習対象に対して、既習経験や学習と比較・照合する中から、「困惑や迷い、不思議さ」（なぜだろう、おもしろそうだ、ここがむずかしい、今までのやり方でできるかな）などの意識や感情をもつもの（問題意識）
- (2) 何とか解決したいという意欲や、そのために関心を抱いているもの（解決意識）
- (3) 子どもの思いや願い（学習欲求）は、問題意識や解決意識の前提となるものであり、問いに同化したものである。
- (4) 間口を広げ「あれも、これも“問い”」として位置づけようとする、目標が甘くなってしまう。

◆「良質な問い」とは・・・

- ・算数の目標に照らして価値付けが可能な問い
- ・個々の子どもがこだわり、追求していくべき発展性がある問い
- ・新たな気づきが生まれる問い

しかし、一方では問題解決学習の形骸化が指摘されている。

- | | |
|--------------------|-------------|
| ●基本的な学習過程をたどるだけの学習 | ●一問一答式の学習 |
| ●「練り合い」と称する発表会の学習 | ●解説型・伝達型の学習 |

そこで、問題解決学習の意義を問い直すことで、これからの算数教育の在り方を考えていきたい。

Ⅱ 札幌支部 研究の重点

1. 研究の重点

全国学力学習状況調査から、興味深い分析結果があった。

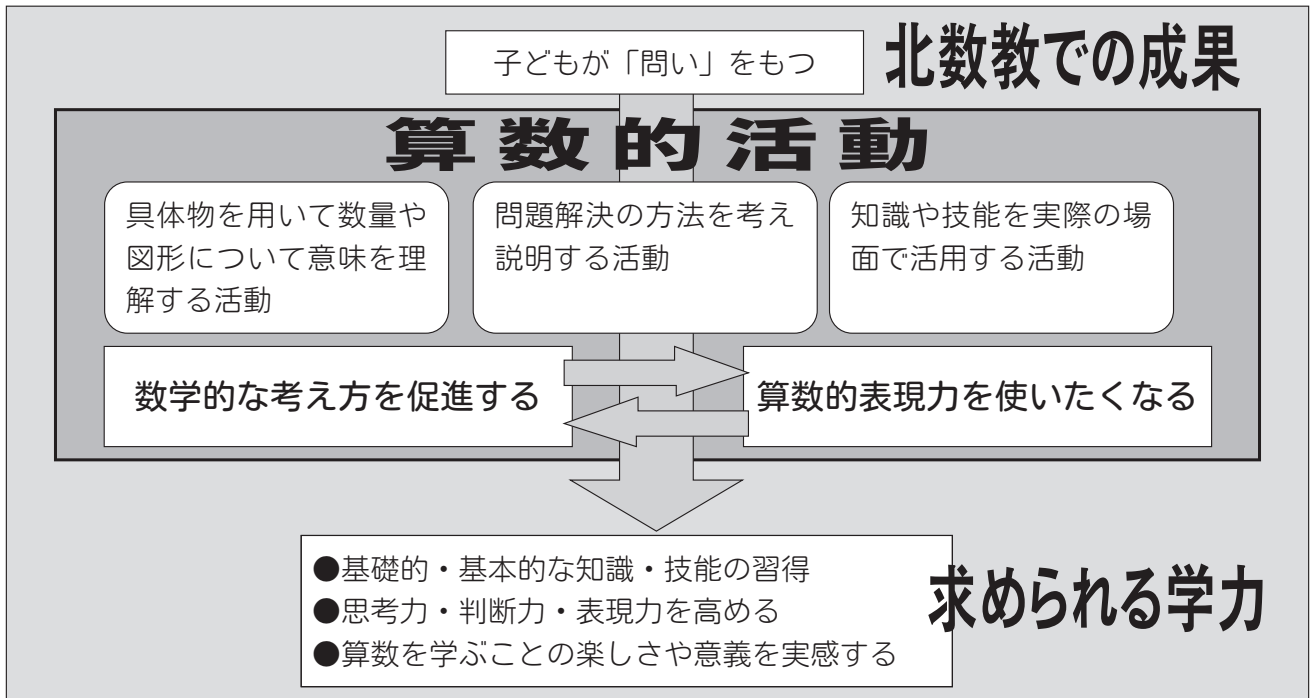
- ・活用力の高い子どもは習得力も高かった。
- ・習得力の高い子どもが必ずしも活用力が高いとはいえない。

やはり、活用する力を身に付けるために、いかに問題解決学習の充実を図っていくかが課題になる。そこで、研究の重点を以下のように定めた。

活用する力を育てる 問題解決学習の創造 ～算数的活動を通じた授業改善～

- | | |
|-------|--|
| 活用する力 | 習得した知識・技能を活用する力。
主体的に考える力、筋道立てて考える力。 |
| 算数的活動 | 児童が目的意識をもって主体的に取り組む算数に関わりのある様々な活動を意味している。（小学校学習指導要領解説 算数編） |

算数科の目標において、「算数的活動を通して」が文頭についたことは、それ以下に示された目標を実現するための学習指導の進め方の基本的な考え方を述べていることになる。そこで、授業を創っていく過程で、「算数的活動」に焦点を当てて取り組むことにした。



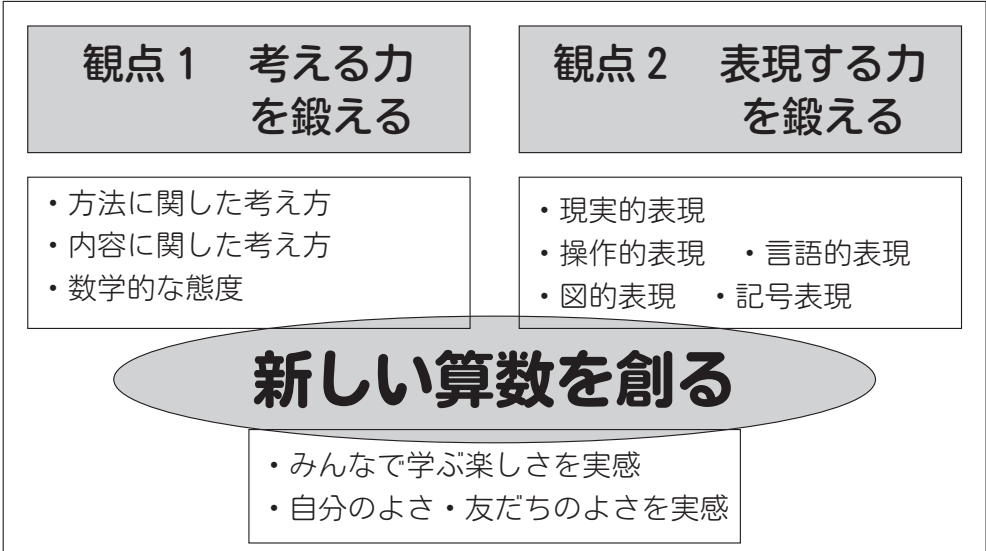
算数的活動には、子どもの主体的な学びが必要である。つまり、自分からはたらきかけ、自分から調べ、新たな性質や考え方を見いだそうとしたり、具体的な課題を解決しようとするなどである。そこでは、算数で最も大切な「数学的な考え方」が促進される。「数学的な考え方」を駆使して主体的に活動していると、その過程のことを表現したくなる。そのためには、子ども自身が「算数的表現」を身に付けることが必要になる。

2. 研究の観点

- 観点1 考える力を鍛える
- 観点2 表現する力を鍛える

研究の観点を上記の2つにした。「鍛える」という言葉には、次のような思いを込めている。本来、子どもは「知りたい」「わかりたい」という気持ちをもっている。しかし、その子どもの欲求に対して、我々教師がきちんと対応できていたか。そこで、教師がはっきりとした目的意識をもって授業

に取り組むことで、子どもが本来もっている力を鍛えていけると考える。それを繰り返すことで、活用する力を身につけた子どもが育つ。



この観点は「子どもに育てたい力」である。「考える力」と「表現する力」は表裏一体であり、明確に分けられるものではない。また、それぞれの力を鍛える場も、単元構成と1単位時間というように明確に分けることは難しい。しかし、あえて「授業を創る」ということを考えて以下のようにした。

観点1 考える力を鍛える	
単元構成	1単位時間
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能の習得（新しい内容の学習に必要な力） →指導形態の工夫と単元構成への位置づけ ・教えることと考えさせることを明確にする ・系統性を見極める (単元と単元、学年と学年) ・「問い」をもつ ・みんなで問題を解決する楽しさを実感する 	

観点2 表現する力を鍛える	
単元構成	1単位時間
<ul style="list-style-type: none"> ・単元を通してどのような言語力を育てるか ・算数的活動の吟味（内容・場の設定など） →多様な見方・考え方が可能な課題提示の工夫 →自分の考えを相手に説明する機会を増やす →自分の解決方法をふり返る場の設定 ・みんなの中で表現するよさを実感する 	

単元構成	
観点1	観点2
<ul style="list-style-type: none"> ・系統性を見極める (単元と単元、学年と学年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を通してどのような言語力を育てるか →どの学年でどのような表現する力を鍛えるかを明確にする
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能の習得（新しい内容の学習に必要な力） →指導形態の工夫と単元構成への位置づけ 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「問い」が連続する 	

1単位時間	
観点1	観点2
<ul style="list-style-type: none"> ・教えることと考えさせることを明確にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数的活動の吟味（内容・場の設定など） →多様な見方・考え方が可能な課題提示の工夫 →自分の考えを相手に説明する機会を増やす →自分の解決方法をふり返る場の設定 ・みんなの中で表現するよさを実感する
<ul style="list-style-type: none"> ・「問い」をもつ 	
<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで問題を解決する楽しさを実感する 	
<ul style="list-style-type: none"> ・考える楽しさを実感する 	

地区紹介

平成22年度の北海道算数数学教育会小学校部会は、5ブロック15地区体制で研究を進めます。

各地区の組織体制づくりを進めている地区委員の方々を紹介します。

	地区	氏名	職	学校名
1 ブ ロ ッ ク	石狩	山田 昌彦	教諭	石狩市立南線小学校
	後志	佐藤 尚武	校長	ニセコ町立ニセコ小学校
	小樽	倉谷 建次	校長	小樽市立量徳小学校
2 ブ ロ ッ ク	上川	長田 一芳	校長	美瑛町立美沢小学校
	旭川	三浦 雅明	校長	旭川市立青雲小学校
	宗谷	赤川 雅則	校長	枝幸町立岡島小学校
	留萌	前田 雄	教頭	留萌市立留萌小学校
3 ブ ロ ッ ク	函館	秋元 順一	校長	函館市立昭和小学校
	胆振	和野 忠康	校長	豊浦町立豊浦小学校
	空知	堀田 秀樹	教諭	滝川市立東小学校
4 ブ ロ ッ ク	釧路	関川 明男	校長	釧路市立湖畔小学校
	根室	原中 隆志	教頭	中標津町立丸山小学校
	十勝	原見 寿史	教頭	鹿追町立鹿追小学校
	網走	鈴木 寿弘	校長	網走市立呼人小学校
5 ブ ロ ッ ク	札幌	池田 英司	校長	札幌市立円山小学校

〈敬称略〉

* 渡島・檜山・苫小牧・室蘭・日高は、3ブロックに所属します。

* 帯広は、4ブロックに所属します。

会計部からのお願い

会費納入のお願い

諸先生におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。日ごろより、本会諸活動にご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

ご存じのとおり、本会は会員皆様方からの会費によって運営されております。この会報「さんすう」の印刷・発行も皆様からの会費で賄われております。

例年、多くの会員の方々に会費を納入していただいておりますことに心よりお礼申し上げます。本年度も北海道算数数学教育会小学校部会の円滑な運営にご理解とご協力をお願い申し上げます。

◇平成22年度分会費 **1,500円**

◆昨年度未納の方は、昨年度分も合わせて**3,000円**を納入していただきます。

同封の振込用紙にて、会費納入をお願いいたします。
なお、昨年度分納入されているかわからないなど、不明な点がありましたら、下記までご連絡ください。

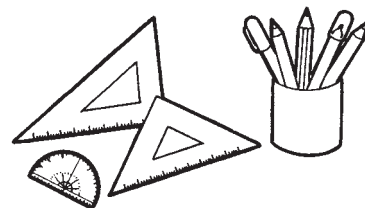
〒005-0012

札幌市南区真駒内上町4丁目7-1

札幌市立 真駒内小学校

庄司 ひさ子

電話 (011) 581-1608



平成22年度 北海道算数数学教育会小学校部会役員・事務局一覧

事務局 札幌市立美しが丘緑小学校 浜野 雅輝

〒004-0814 札幌市清田区美しが丘4条5丁目8-1

TEL (011) 886-5511

FAX (011) 886-5515

【北海道算数数学教育会】

会 長 大久保和義 北海道教育大学 教授

副 会 長 松村 憲治 札幌市立山鼻小学校長

【小学校部会】

部 会 長 佐々木雅史 札幌市立屯田小学校長

副 部 会 長 田中 秀典 札幌市立日新小学校長

(1ブロック) 山内 雅彦 千歳市立高台小学校長

(2ブロック) 三浦 雅明 旭川市立青雲小学校長

(3ブロック) 秋元 順一 函館市立昭和小学校長

(4ブロック) 関川 明男 釧路市立湖畔小学校長

(5ブロック) 池田 英司 札幌市立円山小学校長

幹 事 今澤 慶子 札幌市立大倉山小学校長

研 究 部 長 加瀬 富久 教育大学附属札幌小学校

副部長 島貫 静 札幌市立東苗穂小学校

高田 洋史 札幌市立藻岩小学校

村上 友宏 札幌市立手稲中央小学校

高橋 健一 教育大学附属札幌小学校

黒澤 智美 札幌市立白楊小学校

松田 英子 札幌市立藤野小学校

酒巻 智 札幌市立山鼻小学校

事 務 局 長 浜野 雅輝 札幌市立美しが丘緑小学校長

事 務 局 次 長 松村 聡 札幌市立琴似中央小学校教頭

(会 計) 藤田千恵子 札幌市立発寒東小学校

(庶 務) 高橋 智 札幌市立東橋小学校

(組 織) 伊藤 淳一 札幌市立丘珠小学校

(調 査 情 報) 松村 倫宏 札幌市立北光小学校

(統 括) 荒井 隆弘 札幌市立栄東小学校

(研 究) 中村 義則 札幌市立あいの里西小学校

庶 務 部 長 三浦 恵 札幌市立二条小学校

副部長 齊藤 俊博 札幌市立幌北小学校

渡辺 寿恵 札幌市立厚別通小学校

会 計 部 長 庄司ひさ子 札幌市立真駒内小学校

副部長 岡田 美樹 札幌市立北都小学校

滝ヶ平悠史 札幌市立日新小学校

組 織 部 長 中川 容一 札幌市立資生館小学校

副部長 齊藤 弘樹 札幌市立新琴似北小学校

佐藤 誉倫 札幌市立上野幌小学校

統括本部事務局へ出向

統括事務局次長 荒井 隆弘 札幌市立栄東小学校

統括事務局員 佐々木 讓 札幌市立新琴似小学校

松川 浩之 札幌市立和光小学校

館 誠治 札幌市立稲穂小学校

宮野 正樹 札幌市立発寒東小学校

調査情報部長 小松 雅征 札幌市立山鼻小学校

副部長 佐竹 浩樹 札幌市立あやめ野小学校

星野 邦雄 札幌市立共栄小学校

西澤 裕行 札幌市立宮の森小学校

〈敬称略〉